

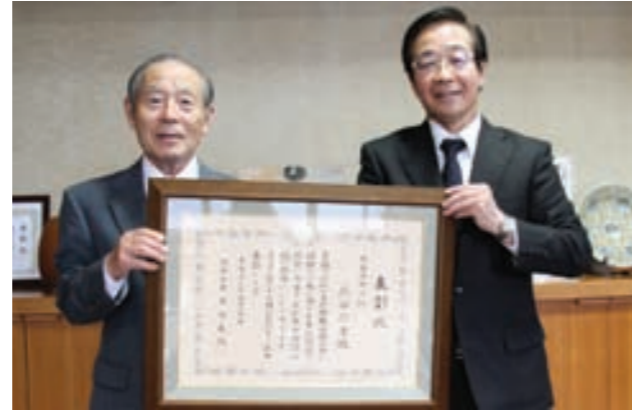
**樹** 定禅寺の「藤まつり」  
樹齢500年以上の長寿と満開を祝い

「藤寺」の愛称で親しまれている定禅寺(弁城)で、4月29日に「藤まつり」が行われました。約800平方メートルの藤棚に浮かび上がる藤は、県指定天然記念物に指定されている町のシンボル。今年は例年と比べて開花が早く、少し散り始めていましたが、住職や虚無僧による供養や愛らしい稚児行列を多くの花見客が見守りました。



↑4年ぶりの稚児行列、稚児7人がきらびやかな衣装を身にまとい藤供養しました。

↓町長を表敬訪問した熊谷氏。出版したばかりの本を町に寄贈しました(P17)。



**熊** 平成28年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰  
熊谷信孝さんが環境大臣賞を受賞

福岡県環境教育アドバイザーを務める熊谷信孝さん(上野)が、自然環境功労者として保全活動部門で環境大臣賞を受賞。県内で唯一の受賞となり、4月20日に東京都内で表彰されました。県内最大のエドヒガン「虎尾桜」の保護など、町の自然環境保全にも尽力。半世紀にわたる研究や保全活動の積み重ねが評価されました。

**6** 町内の清流でホタルが群舞  
月上旬までホタルが見頃

福智川、伊方川、弁城川などの川沿いで、ホタルが水面や山間を飛び交う光景が見られます。町内に生息するのはゲンジボタルで、ホタルの中でも強い光を放つ種類。5月中旬から現れはじめ、月上旬まで幻想的な夜の夜を楽しめます。一足先に鑑賞に訪れた人々は思わず感動の声をもらし、初夏の風情を満喫した様子でした。



↑川岸の自然や清流あってこそその光景。鑑賞の際は必ずマナーを守ってください。

↓軒先にお買い得な割引商品がズラリ。各窯元を巡って器選びを楽しむ陶芸ファン。



**陶** 第43回 上野焼春の陶器まつり  
の里で伝統に触れた3日間

上野焼協働組合13窯元による春の陶器まつりが4月22日から3日間開催され、県内外から多くの陶芸ファンが上野の里を訪れました。一つひとつが丁寧に手作りされ、同じものは二つとないのが魅力の上野焼。来場者は所狭しと並んだ多種多様な商品を手に取り、釉薬の風合いや感触を確かめながら、お気に入りを探していました。

↓迫力の演奏で来場者をもてなした福智炎運太鼓のメンバーに、握手で感謝を伝える外国人選手。



**福** 国際車いすテニス大会交歓会  
福智の郷土芸能で心通わせて

飯塚で行われた国際車いすテニス大会の出場選手やサポーターを招いた交歓会が、5月20日に金田体育館で開かれました。旧金田町とカナダの選手の交流をきっかけに始まり、今年で25回目を数える歓迎イベント。今回大会4連覇を果たし、CMなどにも出演した上地結衣選手をはじめ、約20か国80人のプレーヤーがテーブルを囲みました。獅子舞や炭坑節総踊りなどのアトラクションで会場が一体となり、言葉の壁をもとめせず参加者同士で心の交流を深めました。

**仲** 町内3中学校で体育会  
間との感動が最高の思い出に

5月22日、町内3中学校で体育会が行われました。金田中では3ブロック対抗のリレーや教員も参加した部活動対抗リレーなど全17競技で大盛り上がり。当日まで練習を重ねた男子全員による金田中伝統の棒体操や女子全員による創作ダンスも披露され、全校生徒258人によるりりしい演舞にテントから大きな声援が送られていました。



↑息をそろえて全力でコースを駆け抜け、全生徒でタスキをつないだ多人数リレー。

↓色とりどりの花々で華やかに飾った小堂の釈迦像に甘茶をかけて、生誕をお祝い。



**甘** 興国寺の「花まつり」  
い香りで地域をつなぐ伝統行事

5月8日、足利尊氏ゆかりの古刹・興国寺(上野)で、「花まつり」が行われました。これは、お寺の境内につくられた花御堂に安置された釈迦像の頭上に、甘露の雨を模した“甘茶”をかけてお釈迦様の誕生を祝う法要です。小さな釈迦像に甘茶を注ぎ手を合わせた参拝者は、振る舞われた昔懐かしい甘茶を味わい、無病息災などを祈願しました。